

表紙

性はグラデーション

～学校の安心・安全をどうつくる？どう守る？～

目次

- 1.はじめに
- 2.卒業生の声
- 5.LGBT って？
- 6.こんな言葉、使ったことはありませんか？
- 7.LGBT の子どもたちが学校の中で抱える困難、課題
- 10.明日から学校で実践できることベスト 10
- 11.ハンドブック活用にあたって

P.1

はじめに

ほとんどの人は、「性的マイノリティ」や「LGBT」について学校で習ったことはありません。

2015年4月30日、文部科学省から、『1. 性同一性障害に係る児童生徒についての特有の支援』、そして『2. 性同一性障害に係る児童生徒や「性的マイノリティ」とされる児童生徒に対する相談体制等の充実』についての通知が出されました。

教員養成課程にも性的マイノリティに関する項目は入っていないため、教職員でさえ、多くの一般の方と同様に、正しい知識がない状況です。

しかし、「知らないではすまされない」現状があります。

「淀川区 LGBT 支援事業」では、コミュニティスペースに年間 200 人以上の参加者、電話相談に年間 1,000 件以上の着信がありました。

学校や家庭の中で「おかま、ホモ」などの差別的な発言を見聞きすることも少なくありません。テレビでも、笑いの対象として扱われています。

そんな中、子ども達は、傷つき、誰にも相談できず、孤立しています。「自分は社会に認められない」と思い悩み、不登校や中退、自死などの要因にもなっています。20 人に一人と言われる性的マイノリティは、外国の話や、テレビの中の話ではありません。皆さんがすでに出会ってきた子ども達の話です。

あなたの一言が、あなたの行動が、生徒の命を救うきっかけになるかもしれません。

このハンドブックが、子どもたちを、親を、先生をサポートする一助となりますように。

そして、このハンドブック制作にあたり、ご協力いただいた、淀川区、阿倍野区、都島区の教職員の皆さまに深く感謝いたします。

監修

GID（性同一性障害）学会第 17 回研究大会『トランスジェンダーの健康と権利』大会会長

WAS（世界性の健康学会）性の権利委員会・委員長

大阪府立大学 教授 東 優子

学校...それは、私たちが人生の前半のほとんどを過ごす空間。安心・安全が確保されていて当たり前場所。なのにそう感じられない生徒がいます。でもそれは変えられます。変えようと思う気持ちを言葉にしてみよう、行動に移してみよう。そのためのヒントがこの一冊に詰まっています。

P.2

卒業生の声、集めました

自分の区や学校には同性愛や性同一性障害など性的マイノリティの子どもはいない...
そんな風に思っていないですか？ 卒業生の声を聞いてみましょう！

2015/7/15～2015/8/10 まで、3区を卒業した当事者の声をインターネットで募集しました。
ここではメッセージを書してくれた人の声を一部抜粋して紹介します。

バイセクシュアル・Xジェンダー寄りの大林さん(仮名)、年齢：40歳、出身：淀川区の高校出身
小学生のとき、ズボンばかり履いていたら母親がママ友からいじめにあった。スカートを強制され、地獄のような日々だった。「レズ」という言葉はポルノの言葉だと思って、混乱し続けていた。また、授業の家庭科で女子が男子にクッキーを作るというイベントがあり、気持ちが悪かった。だれかにLGBTについて間違いでもなく、ポルノの話でもないことを教えてほしかった。

レズビアン少しトランスジェンダーの古川さん(仮名)、年齢：39歳、出身：阿倍野区の高校出身
小学校で「中性」とからかわれるのが辛かった。中学校では、全般的に息がつまるような思いだった。いじめが日常的で安らげる場所が学校にはなかった。死んでしまおうと思ったこともある。制服のない天王寺高校に入学し、学問のおもしろさが生きる希望になったが、学校の先生に相談するなんて考えたこともありませんでした。

P.3

卒業生の声、集めました

2015/7/15～2015/8/10 まで、3区を卒業した当事者の声をインターネットで募集しました。
ここではメッセージを書してくれた人の声を一部抜粋して紹介します。

ゲイの小林さん(仮名)、年齢：49歳、出身：阿倍野区の高校出身
自分のセクシュアリティを自覚し、いわゆる”オカマ”と呼ばれる大人になることに、とても大きな表現できない恐怖を覚え、絶望感に浸っていた。「男同士そんなんしたらホモになるぞ」という先生の言葉が忘れられない。小学4年のとき、「オカマと呼ばれることがとても嫌だ」という自分の意見について、学級会を1時間使って議論してくださり、クラスメートの反応が変わった。大変感謝している。

ゲイの来住さん(仮名)、年齢：26歳、出身：都島区、友渕中学校出身
小学校、中学校のときにオカマとからかわれたり、裏でそう言われていた。先生が男同士でセックスすることを冗談めかして話していた。通信簿に「もっと男の子と遊ぶように」と書かれた。校外学習で、商売としてオネエキャラを演じているタイプの人の舞台を観にいき、非常に不適切だと感じた。高校では友人に相談していた。誰かに言わないことにはとてもやっていけなかった。

FTX、無性の金さん(仮名)、年齢：20歳、出身：阿倍野区、文の里中学校出身
水泳は水着がすごく嫌でほとんど休んだ。「おとおんな」とからかわれたことがあった。保健の授業で担任の先生が同性愛について笑っていた。カミングアウトしたら適当に共感されてすごく嫌だった。セーラー服がすごく嫌だったが、担任の先生のおかげで、高校3年の間だけズボンで通わせてもらえた。思春期の一時の気の迷いと受けとらずに真剣に聞いてもらえて本当に救われた。

P.4

卒業生の声、集めました

2015/7/15～2015/8/10 まで、3区を卒業した当事者の声をインターネットで募集しました。ここではメッセージを書いてくれた人の声を一部抜粋して紹介します。

FTM(身体は女性、性自認は男性)の橋本さん(仮名)、年齢：25歳、出身：都島区高倉中学校出身
小学校低学年のときには違和感を感じ始めていたが、知識も情報もあまりなかったので、自分がそうだと気付いたのは高校生になってからだった。水着や制服、男女別の授業、「女らしくしろ」と言われることが嫌だった。高校に入って同じ悩みをもつ友人ができたことで救われた。授業で「多様な性」について学ぶ授業があれば、自分の悩みに早く気づくことができ、周りから変ないいがかりを付けられて悩むこともなかったのに...

FTM(身体は女性、性自認は男性)の森川さん(仮名)、年齢：26歳、出身：記名なし
小学校のときは自分ではよくわからない感情があり、それを周囲に伝えられないことが苦しかった。中学校の時に周りとう違うと思った。高校のとき先生に性別について打ち明けると「先生のまわりにもいる」と言われて救われた。タイツ以外の代替案を提案してくれて助かった。図書館に本があれば高校まで悩むことはなかったと思う。LGBTのニュースについてなど情報提供がほしかった。

レズビアンの出口さん(仮名)、年齢：29歳、出身：都島中学校
高校で好きな同性の先輩ができました。自分の気持ちがよくわからず、悪いことをしているような気持ちになりました。「ゲイが大嫌いだ」と公言している先生もいて、傷ついた子もいたんじゃないかと思う。高校では仲のいい友人に話していましたが、LGBTの仲間に出会うことができませんでした。夏休みに参加できるLGBTのイベントのチラシを終業式の日配ってほしいです。

P.5

LGBTって？

LGBTとは以下の4つの英単語の頭文字を合わせたものです。

Lesbian、レズビアン、女性同性愛者、同性を好きになる女性

Gay、ゲイ、男性同性愛者、同性を好きになる男性

Bisexual、バイセクシュアル、両性愛者、性別にかかわらず、同性を好きになることも異性を好きになることもある人

Transgender、トランスジェンダー、性別越境者、生まれたときに割り当てられた性別とは異なるアイデンティティを持つ人。すべてのトランスジェンダーが性別適合手術やホルモン治療を望むとは限らない。

人口のおよそ5～7%程度がLGBTなどの性的マイノリティであると言われていています。性は多様であり、LGBTに限られるわけではありません。

からだの性、Sex、身体つき、子どもを産む機能、性遺伝子など
性自認・こころの性、Gender Identity、自分の性別をどう思うか
性的指向、Sexual Orientation、好きになる相手の性別
性表現、Gender Expression、服装、しぐさ、言葉遣いなど

例えば

からだは男として生まれてきたけど、自分のことは女性として扱ってほしいな
自分の性別はよくわからないんだ
男の人を好きになることもあるし、女の人も好きになることもあるよ
自分のことは女だと思うけど、スカートは履きたくないんだ
同性しか好きになったことないな
誰かを恋愛として好きになる気持ちは薄いんだ

データ：日高庸晴「子どもの“人生を変える”先生の言葉があります」、『平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業個別施策層のインターネットによるモニタリング調査と教育・検査・臨床現場における予防・支援に関する研究』2014 年

<http://health-issue.jp/f/>

同性愛は精神的な病気のひとつだと思いますか？

無回答 3%、そう思う 5.7%、わからない 25.1%、そう思わない 66.2%

同性愛になるか異性愛になるか、本人の選択によるものだと思いますか？

無回答 3.2%、そう思う 38.5%、25.4% そう思わない、32.8% わからない

ポイント

性的マイノリティは見た目でわからない

性のあり方（セクシュアリティ）は十人十色

大切なのは、その人が LGBT のどれに当てはまるかを考えることではなく、その人が何に困っているのかを一緒に考える意識・態度を身につけること

P.6

こんな言葉を使ったことはありませんか？

ホモ・おかま・オネエ：ゲイを揶揄して使われる言葉です。

- ・あいつホモらしいよ→ホモって言い方も、噂する事も傷つくなぁ...
- ・あの人ってそっち系なんじゃないの？→ホモって言い方も、噂する事も傷つくなぁ...
- ・男同士仲良くしているとあぶくない？→こんな先生には相談できない！

元男、元女 など：トランスジェンダーを揶揄して使われる言葉です。

- ・あの人って本当は元男なんでしょ？→隠しているかもしれないのに、ばらしてない？！
- ・あの人って女か男かわからないよね～→自分の性別のことを相談したいと思えない...

レズ：レズビアンを揶揄して使われる言葉です。

- ・女同士手をつないでレズみたい→レズビアンだったらいけない事なの？！

どっちも など：バイセクシュアルを揶揄して使われる言葉です。

- ・あの人ってどっちもいけるらしいよ→どっちもいけるって言葉が否定的に感じるなぁ...

用語解説

セクシュアリティ：性自認、性的指向などを含めた性のあり方

使用例：私のセクシュアリティはレズビアンです（この場合は性的指向について）

性同一性障害：身体の性別と性自認のずれに苦悩する人に対して使われる診断名。日本精神神経学会のガイドライン、国際疾患分類 10 版(世界保健機構が発行している ICD-10)で使用されている用語。現在名称変更が検討されている

使用例：性同一性障害の診断を受けました

性別違和：出生時に割り当てられた性別に違和感を持つ人に対してつけられる診断名。アメリカ精神医学会が発行している DSM-5 で使用されている用語

FTM/MTF：Female to Male、Male to Female の略

使用例：自分は FTM（Female to Male）で、手術するつもりはないんだ（FTM とは私の身体の性別は女性ですが、性自認は男性ということを表しています）

X ジェンダー(和製英語)：性自認が男でも女でもある、または男でも女でもない、性別を決めたくないと感じる人など。FTX、MTX と表現する人もいる

使用例：私は MTX（Male to X）だと思っています（私の身体の性別は男性ですが、性自認は男性、女性どちらにも分類できないと思っています）

シスジェンダー：非トランスジェンダーを表す言葉。トランスジェンダーが異質なのではなく、性自認が一致しているかそうではないかによって社会における困難の程度が分かれるということを表す言葉として作られた

使用例：私はシスジェンダー異性愛者ですが、LGBT のイベントに参加しています

A セクシュアル、ノンセクシュアル(和製英語)：性的興味関心を抱かない人

使用例：私はノンセクシュアルなので、恋愛するのが当たり前でしょという発言に傷つきます

カミングアウト：自分のセクシュアリティを誰かに伝えること

使用例：今週末、親にカミングアウトしようと思ってるんだ

アウトティング：他人のセクシュアリティを許可なくばらすこと

使用例：友達にセクシュアリティをアウトティングされて傷ついた

P.7

性的マイノリティの子ども達が学校の中で抱える困難、課題（小学校）

表の左側は、大阪市内の学校に通学していた LGBT 当事者の声です

どんな小学校生活だった？

- ・好きなアイドルについて話せなかった
- ・異性とばかり遊んでいたら「中性」とからかわれた

→自分の好きなものを好きだと言えない、もしくは自分のことを偽って過ごすのは誰にとってとても辛い経験です。児童が辛い気持ちを打ち明けてくれた時は、その気持ちを受け止めましょう。「○○さんは○○が好きなんだね」と人と比べずにほめるようにし、自分自身を肯定する気持ちを育てましょう。

・まわりから「ホモ、おかま」だとうわさされた

・自分ではよくわからない感情があり、それを周囲に伝えられず苦しかった

→うわさしている児童には、テレビで言われている言葉でも傷つく人がいることと、うわさすること自体が良くないことだと伝えましょう。「おかまと呼ばれることが嫌だ、と先生に言ったら対応してくれてクラスの雰囲気が変わった」という声もありました。対応はケースバイケースですが、先生が「嫌な思いをしている」という子どものメッセージをスルーしないことが何より大切です。

・スカート履きたくなくてズボンばかり履いていたら、スカートを履くことを強制され地獄のような日々だった

→自分が他の人と違うことに気づいても学校でLGBTについて学ばないため、「自分の変な子なんだ...」と苦しんでいる児童がいます。LGBTの本を図書館に置いてみたり、LGBTについて学ぶ機会を作ったりして、「いろんな人がいるんだ」というメッセージを伝えましょう。

・男の子だから、と伸ばしていた髪を切られたことがショックでたくさん泣いた

→トランスジェンダーの児童は、ランドセルの色、男女別の授業、男女別の持ち物などに苦しんでいます。男女で色分けするのではなく、それぞれが好きなものを選べるよう後押ししましょう。からかっている児童は放置せず、注意しましょう。

先生からの対応や、授業、部活などで困った、嫌だったことは？

・保健の授業で、「みんな異性を意識する」と言っていて居心地が悪かった

→「誰かを意識するようになります」という言い方に変えてみましょう。「相手は同性のことも異性のこともあります」と付け加えるとより丁寧でしょう。

・「もっと男の子（同性）と遊びましょう」と通信簿に書かれて嫌だった

→異性と遊ぶことが好きな子、同性と遊ぶことが好きな子、さまざまです。その子が居心地よく友達と過ごせることを優先しましょう。

・性教育の授業で自分の身体について答えるのがしんどかった

→性器や性機能はプライベートな部分です。自分について話したくない子もいることを尊重しましょう。

研究調査 | 小学生から高校生の中に自分がLGBTであることを話した人数（当時）

本調査における「男子」「女子」について：今回の調査では、学校内でそれぞれが「男子」「女子」として扱われる場面が大半であることを考慮して、あえて生物学的な性に沿った表記とさせていただきました

LGBTの学校生活に関する実態調査(2013) <http://www.endomameta.com/schoolreport.pdf>

男子：291名

0人 53%、1～4人 23%、5～9人 11%、10～19人 6%、20～49人 4%、50人 3%

女子：390名

0人 31%、1~4人 38%、5~9人 15%、10~19人 10%、20~49人 3%、50人 3%

おすすめ図書

たまごちゃん、たびにでる フランチェスカ パルディ (著)

くりちゃんのふしぎながつき はぎいわ むつみ (著)

ゲイのボクから伝えたい「好き」の?(ハテナ)がわかる本 石川大我 (著)

思春期サバイバル 10代の時って考えることが多くなる気がするわけ。ここから探検隊 (著)

見直してみよう!

- 班分けを男女で分けないようにする
- 「くん」「ちゃん」を使わず児童が呼ばれたい呼び名を使う
- 席替えのときの名前を囲む線の色を赤と青にしない
- トイレスリッパの色を見直す
- どんなランドセルの色でも持ってきやすいようにする

p.8

性的マイノリティの子ども達が学校の中で抱える困難、課題 (中学校)

表の左側は、大阪市内の学校に通学していた LGBT 当事者の声です

どんな中学校生活だった?

- ・制服もあり、何事も男女で分かれていて窮屈だった
- ・だんだん男女分かれて遊ぶようになって、周りに合わせるのが嫌だった
- ・「おとこおんな」とからかわれた
- ・修学旅行がよかった
- ・トイレに入りづらかった
- ・自分が「おかま」と呼ばれる大人になることを自覚することが恐怖だった

→トランスジェンダーの生徒が不登校になる主な理由に制服があげられています。ジャージの着用を認めたり、パンツスタイルを選べたりする学校も増えてきています。校則を守らずスカートの下にズボン履いている生徒がいたら、注意をする前に理由を聞いてみるのもいいかもしれません。校則を守ることも大事ですが、生徒の気持ちに配慮できるよう心がけましょう。

- ・同性を好きになってすごく悩んだ
- ・学校に安らげる場所がなかった
- ・友達と好きな人の話をするのが辛くてうそをついていた

→嘘をつきながらやり過ごしている生徒がほとんどです。異性愛者を装うしんどさが強い人ほど、自尊感情が低く、抑うつ割合が高くなるという調査結果もあります。(※出展：日高康晴 2000,ゲイ・バイセクシュアル男性の異性愛者的役割葛藤と精神的健康に関する研究,思春期学 18 巻 3 号,264-272,日本思春期学会)

先生からの対応や、授業、部活などで困った、嫌だったことは?

- ・「おかま」という言葉を冗談で使われることが苦痛だった
- ・「女(男)らしくしろ」と言われること
- ・親の前で「ホモの道に進むのは勝手」と言われた

・「ゲイは嫌いだ」と言っている先生がいた
・男子同士で仲良くしていたら、先生から「そんなことをしたらホモになるぞ」と言われた
→生徒たちは先生の言葉をしっかり聞いています。子ども同士より、むしろ大人が使う言葉に傷つくことが多いという調査結果もあります。もしうっかり発言してしまった時は、「ごめん、今のは先生の言い方が悪かった」とすかさず訂正しましょう。

・体育やプールの授業が嫌で、プールはすべて欠席していた
→特定の生徒に許可するのではなく、全員にラッシュガードを許可するなど、当事者の生徒がカミングアウトしなくても居心地よく過ごせる工夫をしましょう。

・保健の授業で同性愛はタブー視されている雰囲気があった
→「平均」「一般」について話す必要がある一方で、LGBTなどのマイノリティに配慮のある授業を心がけましょう。授業の中で、「思春期に誰かを好きになるかもしれないし、ならないかもしれない」という言い方に変えましょう。

先生からの対応、授業、部活などでよかった、助かったことは？

・同性が好きだと先生に打ち明けたが驚かれなかったこと
→打ち明けられるということは、信頼の証です。その気持ちをまずは精一杯受け止め、表現しましょう。「教えてくれてありがとう」の一言が、次の相談のきっかけにつながります。

おすすめ図書

ボクの彼氏はどこにいる？ 石川大我(著)
レズビアン的結婚生活 東小雪、増原裕子 (著)
NHK「ハートをつなごう」LGBT BOOK

中学生は、人と違うことに敏感な年頃。具体的な悩みがでてきても、その原因がわからずイライラしているのかも…。まずは生徒に自分の知りたいことを調べる方法を伝えてみよう。

今回のハンドブック作成のために募集したメッセージでは、12名のうち11名が「よかった、助かったことはなかった」と回答したことは、中学校生活がLGBTの生徒にとって厳しい環境であることを表しているのかもしれない。

研究調査 | 自殺を考えたことがある・自殺未遂をしたことがある

日高庸晴・市川誠一・木村博和 「厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業 ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート2」2007年

<http://www.j-msm.com/report/report02/index.html>

自殺を考えたことがある：ある 65.9%、ない 34.1%

自殺未遂をしたことがある：ある 14%、ない 86%

環境づくりのヒント！

- LGBTの掲示物をはってみよう
- 朝礼や始業式でLGBTについて話してみよう

□ LGBTの本を紹介してみよう

P.9

性的マイノリティの子ども達が学校の中で抱える困難、課題（高校）

表の左側は、大阪市内の学校に通学していた LGBT 当事者の声です

どんな高校生活だった？

- ・同性愛にはポルノのイメージしかなく、ずっと自分のセクシュアリティに混乱していた
- ・同性の先輩を好きになったが、悪いことをしている気持ちだった
- ・自分の存在を恨んだり、困惑していた
- ・本当の自分がだせず、素の自分でいられなかった
- ・クラスメイトの「おれは男好きちゃうから」という言葉がズンと響いた

→高校に入ると、自分の性自認や性的指向がはっきりしてくる生徒も多くいます。将来について考える授業も多くなる中で、性的マイノリティの生徒にはロールモデルがありません。どうやって生きていけばいいのか悩みながら高校生活を過ごしています。悩み始めた時に誰かに相談できるように、当該生徒だけではなく、すべての生徒に向けて LGBT の相談窓口や、自助グループなどを紹介しましょう。

先生からの対応や、授業、部活などで困った、嫌だったことは？

- ・異性愛者以外の方が生徒にいることは全く前提とされていなかった
- ・家庭科で女子がクッキーを作り男子にプレゼントをするイベントがあり苦痛だった
- ・LGBTのことを先生たちが知っているとは全く思えなかった

→「社会」の授業で同性婚について取り上げる、「英語」でカミングアウトしている LGBT の歌手の歌を取り上げるなど、できることを見つけてみましょう。掲示物、学級通信、朝礼、始業式などで LGBT について触れるのも一つです。

- ・カミングアウトしたら、「私もそうやったよ～」と、適当に共感されたのがすごく嫌だった

→カミングアウトはとても勇気のいる行為です。近いセクシュアリティでも困っていることは生徒の環境によって異なります。話してくれたことをまずは受け止め、なぜ勇気のいるカミングアウトを自分にしてくれたのかを考えながら対応しましょう。

- ・性的ないじめを受けた

→いじめを受けても、その理由を言うことがカミングアウトになってしまうために、誰にも相談できていない場合があります。普段から LGBT についての理解を示すことで、相談してもらいやすくなります。また、生徒だけでなく、保護者にも LGBT の理解を広めることで、支援を受けやすくなります。

先生からの対応、授業、部活などでよかった、助かったことは？

- ・担任の先生のおかげでズボンで学校に通わせてもらうことができた
- ・校則でタイツを強制されたが、先生が代替案を提案してくれて助かった
- ・制服がない学校を選んで入学したので、安心して学校に行くことができるようになった
- ・男女でわけて話をしない先生は信頼できると感じた
- ・学問の面白さをいろんな先生に教えてもらうことが生きる希望になった
- ・先生に打ち明けたら「先生のまわりにもいる」と言われて救われた

- ・先生が家に来て見守ってくれていた
- ・カウンセリングに行くことができた
- ・先生が思春期の一時の気の迷いだと受け取らずに真剣に聞いてくれて救われた
- ・英語の先生が「誰かを好きになること自体がすばらしく、同性同士でも同じだ」と授業で言っていて、
- ・自分のことを肯定できた

おすすめ図書

「性同一性障害」の私から 上川あや (著)

LGBT ってなんだろう？からだの性・こころの性・好きになる性 薬師実芳、笹原千奈未、古堂達也、小川奈津己 (著)変えてゆく勇気―

職場におけるLGBT入門 虹色ダイバーシティ (著)

カミングアウト・レターズ～子どもと親、生徒と教師の往復書簡 RYOJI、砂川秀樹 (著)

研究調査 | いじめや暴力を受けたことによる影響 (複数回答可)

LGBTの学校生活に関する実態調査(2013) <http://www.endomameta.com/schoolreport.pdf>

数字順：性別違和のある男子、第3グループの平均

クラスで孤立した 48%、26%

学校に行くのがいやになった 52%、42%

自殺を考えた 41%、31%

わざと自分の身体を傷つけた (リストカットなど) 20%、22%

眠れなくなった 20%、15%

人を信じられなくなった 41%、37%

今でも、その経験を時々思い出す 57%、42%

今でも、その経験を思い出すとつらくなる 50%、31%

P.10

3区の先生たちが作った明日から学校で実践できることベスト10

- 1.男女わけを見直そう！その色わけ、本当に必要？
- 2.「くん」、「ちゃん」って呼ばれたくない子がいるかも...「さん」に統一しよう
- 3.図書館や保健室に本を置こう！学級だより、図書だよりでLGBTの本を紹介してみよう
- 4.差別的な言葉 (p.6) を見聞きしたとき、どう切り返す？とっさの一言を考えておこう
- 5.子どもが相談しやすい「安心」できる先生になろう
- 6.言葉づかいを見直そう！その言葉づかい、OK？ [p.5-6 参照]
- 7.LGBTのポスターを貼ってみよう
- 8.ハンドブックの「卒業生の声」を読もう
- 9.職員会議や学年会議でLGBTについて話そう
- 10.日常生活で「当たり前」になってしまっているかもしれない自分の言動を見直してみよう

先生たちの声

このハンドブックを作成するにあたり、13人の先生方にご協力いただきました。

第1回ワークショップの先生の声

初めて「LGBT」という言葉を知った先生方からは、こんな感想が寄せられました。

- ・説明する自信がない...
- ・知らないから、正直不安
- ・教えることがいじめにつながったり、悪影響になるのでは？

しかし、2週間後の第2回ワークショップのとき、先生方からは以下のような声があがりました。

第2回ワークショップの先生の声

- ・勤めていた学校があった区に当事者がいるんだと再確認した
- ・昔の考えがあたり前になってしまっていた
- ・クラスに1人はLGBTの子どもがいるかもしれないと知り、身近な子ども達について考えられていなかったことに気づいた
- ・学校の中に「性」で分けられているものの多さに気づいた
- ・いままではスルーしていたLGBTのニュースなどにも、問題意識を持てるようになった
- ・「変なやつ」で片付けられてしまう厳しい現実について知れた
- ・一番重要なのは教職員の意識！！当事者のゲストスピーカーを呼んで学校の意識を変えたい
- ・「だれもいじめられることのない学校をつくりたい」ということを子ども達に伝えたい
- ・どんな人も差別しないように学びの場を作ろう

「教える」ことがいじめにつながるのではなく、「教えない」ことが困っている子どもたちを見過ごすことになっています。LGBTについて完璧に説明できるようになる必要もありません。子ども達に先生たちも一緒に学んでいる姿勢を見せていきましょう。

P.11

ハンドブック活用にあたって

よくある疑問

「男子生徒が女子として学校に来たいと言ってきたらどうしよう...」

スカートを履きたい男子生徒もいるかもしれません。しかし、見た目でわからない生徒もいること、自分から相談できず一人で思い悩んでいる生徒がいることを前提に学ぶことが大切です。5～7%の当事者だけでなく、すべての子ども達へ向けて、前向きなメッセージを発信していきましょう。

こんな雰囲気づくりをめざしましょう

「同性が好きでいいやん、異性が好きでいいやん、好きにならんでもいいやん、好きな服装でイキイキしてる方がいいやん」

「自分のことを大切にしたい」「相手のことも大切にしよう」と思える気持ちが自尊心や他人を思いやる心を育むことにつながります。

まずは職員室から見直してみましょ。職員室から発信することで、先生もクラスの子も達も過ごしやすくなるはずですよ。

注意すること

一度決めたルールも、発育に従って状況が変わることもあります。せっかく決めたルールが結果的に不便なルールになってしまっていないか、子どもの目線で定期的に見直してみましょう。

セクシュアリティはゆらぐものです。無理にセクシュアリティを固定させようとせず、その生徒がどの状態がもっとも居心地がいいのか、時間をかけて見守っていくことが大切です。

先生にはカミングアウトしても、友達や親に言いたくないこともあります。保護者の意向をくみ取りつつ、どこまで話していいかは必ず本人に確認してください。

コミュニティスペースへ行ってみよう！

淀川区 LGBT 支援事業では、性的指向や性自認に関わりなく安心して集まれる居場所づくりとしてコミュニティスペースを運営しています。だれが参加しても OK です。先生の参加もお待ちしております！

LGBT 電話相談にかけてみよう！

淀川区 LGBT 支援事業では、電話相談事業を行っています。もちろん先生からの相談も OK です。

平成 27 年度現在の電話相談事業

電話相談周知カード（おもて）

毎週月曜日、水曜日（第 5 週目はのぞく）17:00-22:00

電話番号 0570-009-918

電話相談周知カード（うら）

とにかく一人でさびしい...

学校の制服を着たくない！

子どもからカミングアウトされた...

友達や家族には相談しにくい...

隠して生きていくのがしんどい

クラスの生徒が性同一性障害かも...

性に関わる病気について相談したい

同性パートナーからきつく当たられる...

淀川区 LGBT 支援事業

ツイッター @niji.yodogawa

ホームページ <http://niji-yodogawa.jimdo.com>

本ハンドブックは各区役所のホームページから

ダウンロードすることができます

淀川区役所 <http://www.city.osaka.lg.jp/yodogawa/>

阿倍野区役所 <http://www.city.osaka.lg.jp/abeno/>

都島区役所 <http://www.city.osaka.lg.jp/miyakojima/>

淀川区、阿倍野区、都島区 3 区合同 LGBT ハンドブック

発行：淀川区役所、阿倍野区役所、都島区役所

協力：ワークショップに参加していただいた教員の皆様

編集：虹色ダイバーシティ&QWRC 共同体

発行日:2015年12月

問い合わせ先:淀川区役所市民協働課

メール tl0002@city.osaka.lg.jp

電話 06-6308-9734

FAX 06-6885-0535